

# 文協とちぎ

第2号

【編集発行】

栃木市文化活動協議会

住所：栃木市万町9番25号  
栃木市教育委員会  
生涯学習部文化課内  
TEL:0282-21-2495  
FAX:0282-21-2690

【題字】 田中 暁亭 氏



「七廻り鏡塚古墳全景」(昭和44年頃)



国指定重要文化財「出土直後の舟形木棺と組み合わせ木棺」

(栃木市おおひら郷土参考館保管展示)

「文化財」それは、私たちが未来のために守り、継承してゆく共有財産です。有形文化財・無形文化財を問わず、これら文化財を後世に伝えてゆく責務でもあり、郷土愛につながるものと思います。

栃木市民をはじめ多くの方々が、「身近にある文化財」を見直すと共に、文化財に対する理解と認識を、なお一層深めていきましょう。

栃木市には、現在、国指定文化財が6件、県指定文化財が39件、市指定文化財が191件あります。今回は、大平地域の国指定重要文化財「鏡塚古墳出土遺物」を紹介しました。

## 栃木市文化活動協議会広報誌

### 第二号発行に寄せて



栃木市文化活動協議会  
会長 大島 光男

「歌や芸事で、飯は食えねえ！」「道楽もんはうちにはいねえ。うちにはおかねえ！」明治生まれの祖父の口癖でした。父を幼くして亡くした私は、こういう祖父に育てられて、遊びや道楽(文芸的なもの)には無縁で、無我夢中に働いてきました。

転機は50代半ばにやってきました。少しではありませんが、ようやく人並みに、自分のために時間とお金を使えるようになり、保護司に推挙されて、社会貢献活動に思いをいたしていたある日、妻から「町(当時の藤岡町)の生涯学習講座でオカリナ教室があるよ。一つくらい共通の趣味があってもいいよね。」と誘われたのが、そもそもそのきっかけ。直ぐにオカリナの楽しさに引き込まれ、また唯一の男性メンバーとして代表に祀り上げられて、今日に至り、夢想だになかった現在の立場に困惑している次第です。

文化的な素養・実績も、確たる信念も独自性も持ち合わせていない若輩者の私ですが、他地域の5名の会長さん方のご指導・ご協力を頂き、『わたしが光りみんなで輝く 文化の息づくまちづくり』を合言葉に、栃木市文化の発展に寄与できます様努めていきたいと思っております。

請け売りで恐縮ですが、シルバード世代には「きょうよう」「きょういく」が必要とのこと。「えつ、教養・教育?」「いまさら?」いいえ、「きょうよう」は「今日用事がある」「きょういく」は「今日行くところがある」ということだとか。人生の後半戦(もちろん早くからできることに越したことありませんが)に興味や道楽に勤しむ事も、元気で明るく、充実した生活を送ることにつながるのではないかと、強く思うこの頃です。